

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	敬愛大学	学部・学科名 ※	経済、国際、教育学部
科目名 ※	統計学 I	単位数 ※	2
開講学期 ※	2024年度前期	曜日・時限 ※	水曜 1限
キャンパス ※	稲毛キャンパス	教室 ※	後日指定
学修分野			
授業目的 ※	記述統計の様々なアイデアを人に説明できるようになる。		
到達目標	データの要約の実用性の高い知識を効率よく学習する。		
授業内容	データの種類、データの中心の特性値、データのバラツキ、変動係数・標準化・正規化、度数分布表とヒストグラムとローレンツ曲線、共分散と相関係数、見せかけの相関と偏相関係数、回帰分析、リスク比、オッズ比		
授業形態 ※	授業は対面形式で、前半に講義し、後半に演習を行う。演習はmoodleで実施する。		
評価方法 ※	演習、試験2回 中間試験と期末試験を未受験の場合は評価対象としない。		
評価基準	演習50% (小テスト3%×10回, 演習6.7%×3回) 試験50% (中間試験25%, 期末試験25%)		
テキスト	テキストは授業内で指示します。		
注意事項			
授業シラバス	本学ポータルサイト「Keiai Campus Navigator」で確認すること。 https://kcn.u-keiai.ac.jp/uprx/ トップ画面の「シラバス照会」から検索する。		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉明德短期大学	学部・学科名 ※	保育創造学科
科目名 ※	保育原論	単位数 ※	2
開講学期 ※	2024年度前期	曜日・時限 ※	水曜日・1限
キャンパス ※	千葉明德短期大学	教室 ※	22AB
学修分野			
授業目的 ※	保育士資格必修保育の本質・目的に関する科目		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育の意義と目的について理解し、説明することができる。 ・ 幼稚園教育要領・保育所保育指針における保育の基本について理解し、説明することができる。 ・ 保育の内容と方法の基本について理解し、説明することができる。 ・ 保育の思想と歴史的変遷について理解し、説明することができる。 ・ 保育の現状と課題について考察し、意見を表明する。 		
授業内容	保育所保育指針等における保育の基本について学び、保育の意義や目的を理解する。また、保育の内容と方法、法令や制度の基本、歴史的変遷や思想について学んだ上で、保育の現状と課題について考察する。		
授業形態 ※	講義		
評価方法 ※	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内コメントシート 20% ・ 授業内課題 30% ・ 期末レポート 50% 		
評価基準			
テキスト	「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 「保育補保育指針解説」フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館 その他、資料を適宜配布する。		
注意事項			

授業シラバス	第1回 「保育」とは何か：「保育」のイメージ
	第2回 あらためて「保育」とは何か
	第3回 保育の基盤としての子ども観
	第4回 子ども理解から出発する保育
	第5回 保育内容・方法の原理：保育の基本
	第6回 保育内容・方法の原理：保育の一場面から
	第7回 子どもが育つ環境の理解
	第8回 保育実践から学ぶ①（第1～7回までのまとめ）
	第9回 保育の計画と実践の原理
	第10回 多様な子どもと共に育つ保育：多様性が求められる時代の保育
	第11回 多様な子どもと共に育つ保育：保育の一場面から
	第12回 保育の歴史に学ぶ
	第13回 現代の子育てと子育て支援
	第14回 保育実践から学ぶ②（第9～13回までのまとめ）
	第15回 保育の現状と課題

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	淑徳大学	学部・学科名 ※	コミュニティ政策
科目名※	地域政策論	単位数 ※	2
開講学期※	2024年度 前学期	曜日・時限 ※	水曜2限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	5-102
学修分野			
授業目的※	グローバル化の進展に伴って、経済社会環境は大きく変化してきている。そのような環境変化の中で、受講生個々人が地域を構成する一員として、地域を発展させるための解決策について考えられるようになる。		
到達目標	地域の産業構造を捉えるための力を養う 経済学の理論をベースに地域の課題を捉えられるようになる 上記の知見を基礎にして、地域政策の提言ができる		
授業内容	地域経済論の基礎的な理論の他、地域産業をテーマに地域で実際に起きている環境変化を紹介し、地域でどのような政策を実施すべきかを考えられるよう授業を実施する。また場合に応じて、地域の実務者を招いてディスカッションをする機会を設ける。		
授業形態※	基本的には講義形式の授業を行うが、アクティブラーニングの手法を活用する。 授業内で数回グループワークを求めることがある。また各授業の終わりに授業内レポートの提出を求める。 その際、インターネット等を通じて調査をしたり、データを集計することが必要であることがあり、各自、適切なデバイス（PC・タブレット等）を持参することが望ましい。 なお、この授業では授業資料の配布や、課題の提示はGoogle Classroomを用いる。 授業開始前までに参加しておくことが望ましい。 招待リンク https://classroom.google.com/c/NjYzMTQwNTEzNDIz?cjc=b2v4j3b 招待コード b2v4j3b		
評価方法※	成績評価は授業内レポート、中間テスト、授業内テストにより総合的に判断する。		
評価基準	授業内課題 50点 中間テスト 20点 授業内テスト 30点 S:100～90点、A：89～80点、B：79～70点、C：69～60点、D：60点未満		
テキスト	※この科目では指定の教科書はありません。授業内で使用する資料等については、別途授業内でご案内いたします。		
注意事項	予習・復習を欠かさないこと。		
授業シラバス	「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。 https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	帝京平成大学	学部・学科名 ※	健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科
科目名 ※	スポーツ生理学Ⅰ	単位数 ※	2単位
開講学期 ※	2024年度前期	曜日・時限 ※	水曜日3限
キャンパス ※	千葉キャンパス	教室 ※	6-205
学修分野			
授業目的 ※	身体の仕組みや身体の機能について理解する生理学の中でも、スポーツを行った際の身体の変化や機能について理解する分野がスポーツ生理学です。		
到達目標	この授業では、「スポーツを実践する際の身体の変化や身体の仕組みについて、運動・スポーツ指導者として必要なスポーツ生理学的知識」を身に付けてもらうことを目指します。また、各自の健康づくりおよびスポーツパフォーマンス向上のプログラム作成のための基礎知識習得を目指します。		
授業内容	原則として各回ごとにテーマを設定して講義を行います。 また興味のあるテーマやキーワードについてグループワークを実施、またはグループごとに発表なども実施します。 スポーツに対する様々な身体の生理的な反応や適応についての機序を学びます。 トレーニングプログラムは、持久力や筋力の向上および効果的なダイエットや健康の維持・増進など、様々な目的に応じて作成されます。スポーツ生理学では、適切なトレーニングプログラムを作成するための基礎になる知識について学びます。		
授業形態 ※	対面		
評価方法 ※	定期試験70%、授業内での小テストおよびレポート課題などの平常点30%。		
評価基準			
テキスト	適宜プリントを配布する予定です。		
注意事項			
授業シラバス			

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	帝京平成大学	学部・学科名 ※	健康医療スポーツ学部 医療スポーツ学科
科目名 ※	スポーツ倫理	単位数 ※	2単位
開講学期 ※	2024年度前期	曜日・時限 ※	水曜日3限
キャンパス ※	千葉キャンパス	教室 ※	1-219
学修分野			
授業目的 ※	ジュニア期のスポーツに焦点を当て、子どもの特性・発育発達を踏まえた指導を、スポーツ倫理の側面から学修を進める。日本体育協会のジュニアスポーツ指導員資格教本に準拠し、指導者の資質向上に向けた基礎的知識の獲得が主たるテーマとする。		
到達目標	<p>本授業の到達目標は、以下の3点である。</p> <p>①ジュニア期のスポーツ指導者としての基礎知識を学修</p> <p>②指導者としての倫理観を学修</p> <p>③子どもとのコミュニケーションの基本を学修</p>		
授業内容	<p>本授業では、ジュニア期のスポーツの考え方、子どもの発達とコミュニケーションスキルといった具体的なテーマのもと、スポーツ倫理の重要性を学修する。スポーツ文化の価値を高め、創造するため、社会から求められる指導者像の確立につなげる。指導における、体罰や暴力の根絶に必要な知識とスキルを具体的に学ぶ。</p> <p>キーワード：ジュニアスポーツ、指導者、倫理観、コミュニケーション</p>		
授業形態 ※	対面		
評価方法 ※	毎回の授業内小レポート・授業外学習（40%）及び定期試験（60%）とし、総合的に評価する。		
評価基準			
テキスト	指定テキストは特にない。必要な教材は随時配布もしくは紹介する。		
注意事項			
授業シラバス			

※は必須記入事項